

第1回 白馬村再生可能エネルギーに関する基本方針等連絡協議会 議事録

日時：令和3年3月23日（火）午後1時30分～

会場：白馬村役場3階 302会議室

委員出席者

齋藤 達郎（株式会社リコー 環境事業開発センター 販売マーケティング室 副室長）
柳澤 英俊（北アルプス地域振興局 総務・環境課 企画幹兼環境係長）
下川 啓一（白馬村農政課 農政課長）…………… 欠席
割田 敏明（大北森林組合 専務理事）
田口 功一（合資会社 白馬電力 代表）
和田 寛（株式会社岩岳リゾート 代表取締役社長）
伊藤 英喜（株式会社五竜 代表取締役）
渡辺 俊介（白馬E Vクラブ 事務局長）
高田 翔太郎（一般社団法人 POW Japan 事務局長）
草本 朋子（HAKUBA SDG's ラボ 代表）…………… リモート参加
坪井 夏希（パタゴニア白馬/アウトレット 環境担当）
石田 幸央（株式会社しくみ 代表取締役）
武田 昭彦（白馬ファーム株式会社 代表取締役） 薪事業者
田中 末春（有限会社田中建設（白馬・木材リサイクルセンター）） 会長

事務局吉田総務課長

経過、コロナ対策事項を説明。オブザーバーの参加について承認を得た。

村長あいさつ

委員就任のお礼と状況等を説明し、協力をお願いした。

事務局吉田総務課長

- ・委嘱状交付について（席上交付）
- ・委員の紹介：殆どが準備会からの委員であるため、新規委員のみ紹介
（大北森林組合専務理事：割田俊明氏・役場農政課長：下川啓一氏（欠席））
- ・会長及び副会長の選任
会長：学識経験者として委員就任している（株）リコー 齋藤達郎氏を提案、承認、挨拶
副会長：準備会で会長を務めてもらった（株）しくみ 石田幸央氏（会長が選任）、承認、挨拶
- ・村長からの諮問（村長より協議会へ）

<会議事項>

事務局矢口係長

会議の公開について事務局が説明。（原則公開とする事等）

齋藤会長

情報発信の意味でも公開していきたい。

事務局矢口係長

会議資料の確認と説明。（事前配布に加え追加資料あり）

事務局吉田総務課長

補足説明（正確なデータを取得する為に環境省の補助金を使い調査事業を行いたい、採択されるか不明であ

り、採択されなかった場合は、改めて協議したい。)

齋藤会長

(資料4)第3章の基本方針については、既に準備会で作成済のものを、更に作りこんでいくということだと思うが、具体的にどのようにとか、どのタイミングまでにと考えているか？

事務局矢口係長

資料3の準備会で作成した報告書のp1の2に「ゼロカーボンの実現に向けた基本的な方針」として5つ書かれているが、基本的にこの言葉が入ってくる事になる。第1章からの繋がりで修正する必要が出てくれば修正することになる。

齋藤会長

皆さんから質問を含めて意見を頂きたい。特に具体的なアクションプランに向けた調査の方法とか協議会の進め方とかを中心に意見をお聞きたい。

和田委員

補助金を活用するとあるがどういう事業か？村の予算はいくらか？

事務局矢口係長

正式な事業名は掴んでいないが、環境省の調査事業で、補助率は10分の10。村の予算は660万円程計上している。

和田委員

補助事業の対象がどこまでという事にもよるとが、この調査のやり方だとフワッとしたものになる様な感じがする。数値目標やできるかもしれないという事だけではなく、具体的に“何処で何をやったらできる”というものをスピード感を持って出していかないと、目標を立てて終わってしまったというのは、お金の使い方としてもったいないと感じる。

水力と風力とバイオマスという項目を出しているのであれば、小水力ならここでこの位できますよという様な地点の調査に予算を使うとか、バイオマスなら林業と繋げて、こういう風にするとか。発電機等のコストがどの位かかり、この位の回収ができ、こういう人が事業に参加する良いという事を出していかないと、永遠に計画だけ書いていく事になると思う。

割田委員

以前に村でバイオマスの補助事業を行ったが、結果的に薪ストーブを入れただけになってしまったが、その時に調査したデータ等が使えるのではないか？大きな予算を使いコンサルや専門家を入れて目標を設定したが、具体的な行動計画に結び付く様な形になれば良いが、そうならない様にしていけないといけない。

齋藤会長

それは、どの様な調査事業か？

事務局吉田総務課長

白馬村公共施設における木質バイオマス発電・熱利用設備導入計画策定事業である。

和田委員

水力も調査していたと思う。いずれにしても基になる研究材料が多々あると思うので、そこからもう一歩踏み込んで決める時期だと思う。

齋藤会長

そういったものは大きな財産だが、情報としてシェアできるものか？

柳澤委員

(今回追加した)県の資料「2050 ゼロカーボンに向けた現況と主な県の取組等について」のp2、「3 白馬村

の再生可能エネルギー発電の状況について」に書かれているものは、村のホームページにある小水力の報告書とバイオマス発電の報告書から書いているので、使えると思う。

大竹アドバイザー

一般的に環境省の補助金使う場合は、まずは白馬村で再生エネのポテンシャルは何が高いのか？日当たりが良いので太陽光とか、水のあるところはマイクロ水力、間伐材が沢山あるのであればバイオマスなどがあるので、そのポテンシャルを調査する。その後に白馬はマイクロ水力にポテンシャルがあり、効率が良さそうだということになれば、その次にマイクロ水力だけの調査を行うというステップになる。

以前のデータがあるのであれば、それを生かしてより具体的な調査をってもらうプロポーザルを出す事は可能だと思うので、皆さんでご検討頂きたい。

渡辺委員

調査結果を材料に委員が議論をして作っていくという認識だが、その後の行動計画作成にも伴走してもらうイメージもある。

齋藤会長

そこは、それを仕様に入れるかどうかですが。伴走してもらった方が良いと思う。

渡辺委員

例えば業者さんだったり、大学だったり研究機関であったりするが、行動計画作成まで付き合ってもらった方が安心感があるし、その上で地元の意見や特性等を吸い上げる事が良いと思う。

大竹アドバイザー

環境省の補助事業は中身が解りづらく、言い方を変えればこれをこう捉えてこういう事に使いたいという事が結構通るものなので、どういう所に重点を置いた調査にするかを決めて業者側に提示する事は可能と思う。

齋藤会長

冒頭に和田委員から指摘があった様に、資料6の内容だと結果がフワツとなるのかな？という感じはあるので、中間報告を入れるとか。客観的なデータをまとめるフェーズと、その後に具体的にどうするかという計画建てをってもらうとか、こちらから要求仕様にするとか。

和田委員

私がコンサルなら、恐らく最初の計算の所に工数を掛けると思う。準備会の議論でも、白馬村で何が良いかという事は議論が割れなかったと思うので、そこにエネルギーを使い調べるのではなく、その先のどこで誰がどうビジネスモデルでやるのが良いとかを固める事に使うべきだと思う。それで目標値に対してこれ位積み上がり、足りない分は20年掛けてこうしていきましょうという事でないと行動計画にならないのではないかな。

齋藤会長

事務局の説明だと、準備会での科学的な根拠、客観性というところについては…

和田委員

行政としてはある程度必要なのかもしれないが、答えがあるはずのところエネルギーを使わないほうが良いと思う。

事務局吉田総務課長

再生可能エネルギーや新エネルギーについては過去において調査したものがあり、それはある程度使えると思う。

一昨年行った木質バイオマスの検討会は、化石燃料を木質バイオマスに交換するという目的に特化したモデル事業で、公共施設にはどういものが使えるかという補助事業でしたが、川上から川下までという流れや費用対効果の点でなかなか巧いかなかったが、その情報については、業者の方に提案をしながら進んでいきたい。

補助事業というのは、補助メニューと目的という事になりますが、この協議会は更に大きな住民一人ひとりの行動計

画を作るという事から伴走しながら進んでもらいたい。

ビジネスモデルとして誰がどこでという具体的な事を示すべきという提案を頂ければ、仕様書に盛り込んでいき、おぼろげな計画を更に具体的なものにしていった方が良いと考えるので、期待に沿えるようにしていきたい。

石田委員

この調査について、依頼先ややり方、プロポーザルで広く募るのか？

事務局吉田総務課長

予算は取りましたが、まだ新年度になっていないので、プロポーザルも可能ですし、仕様書を定めて入札という形も取れるが、まだ決定していない。

大竹アドバイザー

再生可能エネルギーに関するデータ、特に小水力に関するデータは大規模なものは開拓尽くされかなりたくさんあるが、小規模のマイクロ水力については、結構少ない。白馬村では農業用水も砂防堰堤もあり、数十キロワットや数キロワットならできそうな現場が沢山あるので、それを洗い出す様な調査をする事により、ここなら採算が取れそうだという事に繋がると思う。現実を定量化するようなことは一度やっていただいた方が良くと思う。

過去の情報だけで整理すると、大きいところだけで他はポテンシャルがないという事になりかねないのでそこは注意した方が良くと思う。

齋藤会長

他に調査の関係についてはいかがか？

柳澤委員

気になる点があるのでお話ししたい。

役場の中で総務課が担当しているが、他の課とも関係するので横の連携をお願いしたい。

業者選定が5月とすると、仕様について、次回にそれを検討する事が可能か。

家庭部門、業務部門、産業部門、運輸部門とあるが、対象はどの辺を考えているか。全体を考えているか。

H V T（白馬バレータリズム）でも同じように行動計画について議論をしているが、それぞれ違うものを作ってもメリットがないので、H V Tの関係者も居るので連携を取り同じような所へ向かっていければと思う。

次回は勉強会という話があったが、委員のみではなく村民を含め広く参加してもらい、村民からも意見を聞く事が良いのではないか。

3〜4回については、中身を検討する事になると思うが、そこでも村民の意見を聞くと参考になると思う。

前回（準備会）でまとめたのが10月で、そのタイミングで国はコロナの非常事態宣言をしたこともあり、国の動きが急に動いている。県は既存技術を使う事で議論しているが、国は技術革新によって進めようとしていて、洋上風力やソーラーシェアリング等が議論されている。この地域は元々太陽光のポテンシャルは微妙であり、長野県全体でも野立の太陽光発電には前向きではないが、畑の上に作るソーラーシェアリングはポテンシャルとしても高いようなので、それは載せていくのか？そういう話もしていく必要もあると思う。

事務局吉田総務課長

エネルギー部門の対象は、全てを考えている。議会からも「家庭用の電力は全て再生可能エネルギーで賄う」事としているが、事業用もこれだけ賄っているという数値（分母・分子を何にするかという事もあります）で示して欲しいという背景もあるので、一とりの数値は全部を押さえておきたい。

渡辺委員

白馬バレータリズムのSDG's委員会の事については、草本委員・坪井委員と共にその委員も兼ねているため、両方に出席している。その中の再生可能エネルギーの利活用という重要な問題について議論をしていて同じような議論をしていると感じていた。去年はビジョンを掲げてどういった宣言を出すとか、その目標をどうするかとかが議論の大半だったので、具体的にどうするかというのは来年度からになる。それが見えてくれば、ここは共同し連携してできるのではないかと思い私としても期待している。

太陽光発電は、追い風が吹いている一方で、細かいエリアで見れば地域住民に反対されたり、風当たりがあるものもあると感じている。今回この行動計画の中で県や村に関しては、野立はお薦めではなく屋根にとかありますが、事業者へのコントロールはできない中で、事業者もどんどん入って来る可能性もあり、太陽光発電を規制する条例の整備を同時に進めていくべきではないか。

現に大町市では仁科三湖辺りでメガソーラーの建設計画があり、自分も関わっているが、知らないうちに進んでしまう現状がある。白馬村では景観条例である程度規制ができるかもしれないが、良くないものはしっかりブロックできるような条例を制定していく必要があると思う。

齋藤会長

今の話は、まさに日本国中で議論されているポイントです。

小泉環境大臣が自治体へのヒアリングをしており、先日 4 回目のヒアリングを視聴しました。地域住民とのトラブルが課題として取り上げられていて、国としても問題視している。

柳澤委員

環境審議会の委員もしており、その中で白馬村でも「太陽光発電設備の設計等に関するガイドライン」というものを当初は令和 3 年度当初に策定の方向で進めているというふうに聞いている。条例ではなく届出形式で助言等ができる様な形という事で聞いている。

事務局吉田総務課長

ガイドラインはできていると思う。県の景観条例の指定地域になっており、一定の基準を超えるものについては届出の対象になるというもの。白馬村で今考えているのは、県の条例から外れて白馬村が景観行政団体となり、いわゆる景観を守る自治体に移行に向けて現在作業を進めている。村内でも一部事業者が入っている所もあるが、太陽光発電についても一定の規制を設けていくことになる。景観行政団体になると白馬村の条例下で規制できるようになるという方向で進めているところである。

伊藤委員

白馬村には現在何箇所位の申請・届出・許可件数があるか？ 12〜3 か所か？ 太陽光の事業者さんにも会ったが、私には基本的に関心がなく、投資はしないと云っている。

話の中で、既にこんなにあると驚いたところもあり、知識として聞いておきたい。

事務局吉田総務課長

土地を取得して事業を行うもの、賃貸で行うものとあるので、数値としては判らない。東山のものは土地を取得して行っているという理解である。その他に予定地がどの位あるのかは掴んでいない。ただ、一定の面積以上については届出が必要となり、形質変更を伴う場合も面積により届出が必要となるので、そこで状況が判ることになる。

そこに掛からない小規模の場合、工作物の対象にもならないものは把握しようがない。

大規模なものについては調べてみたい。

割田委員

今回は再生可能エネルギーという事だが、プラスチックについても大きな問題となっており、行動計画の中に入れていくのも良いのではないか。

齋藤会長

プラスチック問題については、取り組んでいる事があるか？

事務局吉田総務課長

住民課の環境衛生の方では、ゴミの減量を進めており、リサイクル・リユース等についても謳っているが、準備会でも家庭で一人ひとりができる事を推奨する事としているので、エネルギーに関わる事であれば重複しても載せる考えでいる。

リサイクルと言っても、例えば鉄の受入れは年によって有料になる様な事があるので、載せ方等については住民課と連携をとる必要があるが載せていきたい。

石田副会長

ゴミの話は住民からすると興味のある事だし簡単に参加できるので、ゴミを減らすとかプラスチックを使わない様にしようとか、レジ袋の規制もありますが、その先にどういう事が起きるのかという事を現実的に捉える必要がある。東京のごみ焼却場を見学したが、せっかく分別されたものを全部一緒に燃やしている現実がある。木質バイオマスのお話をしましたが、利用する木があるが、いやいやこの木は取れないよ！となる。プラスチックごみは分別する以前にそれを使わないという事がその先の Co2 の削減につながる事になるので、その先のステージにあっても良いと思う。住民が参加しやすい分野ではある。

割田委員

脱炭素、ゼロカーボンという意味でも、プラスチックは化石燃料からできているものなので、次のステップでも良いが、やっておいた方が良いと思う。

石田副会長

調査事業の仕様について検討ができるかという話がありましたが、ビジネスモデルの提案という事がフワッとしてしまう可能性が高いと思うので、現地をいくつか選択・提案した上でシミュレーションし、最終的に具体的な仕様となるようなものを入れたい。

ビジネスモデルの検討だと、バイオマスだとこうで、太陽光だとこうですと言われても、それは知っているよ！という結果になりがちです。水力であればサンプリングし、こういうコストがあり、これだけの発電の予想ができますというような調査をし、その結果を具体例として提案してもらうような仕様である。調査の仕方によって結果もかなり変わってくるので、具体的な内容に踏み込めるのではないかと思います。

事務局吉田総務課長

村として欲しいのは、数値データです。小水力に関しては庁内の検討会でも選定している箇所があるのでその可能性を探る事はできると思うが、できる限りそういうものを選択できるような仕様書にもっていきたいと思うが、人工の関係でどこまでできるか、例えばプラント系の考えも入れないといけないのかという事もあるので、事務局で預りたい。

過去のデータ等を使いながら、具体的な地点を定めてそれに対する規制を含めて提案して欲しいという事であるので、予算や補助事業のメニューの内容を把握した上で希望に沿う様な形で進めていきたい。

齋藤会長

石田委員の発言は、ここでどの位の発電ができそうですよという事だけではなく…。

石田副会長

そこまで聞こうという事です。ビジネスモデルの提案とあるが、そこに具体例が入ってこないという心配があるので、より具体的なシミュレーションがあればより現実的な調査になるのではないかと思います。

齋藤会長

何箇所か具体的にそういうものを出さないとあまり意味がないというか。どの位のポテンシャルがあるのかという事を出すためには具体的に…。

事務局吉田総務課長

小水力発電であれば、水利権の話も地区への話もしないといけないという事があり、仕様書に謳い込む前段にも調整が必要であり、どこまで踏み込めるかという確認も必要です。総花的な調査事業ではないと思いますが、何点かは具体的なものにしながら、一方では水量がこの位ならこういうビジネスモデルがあるという事も入れ、一方では標準的なサンプルとして捉えていく事も考えられるので、少し預らせて頂きたい。

石田副会長

仕様を次回で検討する事は可能か。

事務局吉田総務課長

仕様書の原案を配り、それに対する意見を聞きながら進めたい。

坪井委員

仕様書の参考になるかわからないが、パタゴニア白馬では環境新聞を取っているが、その中に自治体向けに「脱炭素社会（ゼロカーボン社会）ビジョン策定のマニュアル」というものを国立環境研究所が出しています。（既然大島町は策定した。中身も凄く解り易いし、委員だけでなく一般市民でも読んだら面白いのではと思う。）作り方を見ていると長野県が作ったものとそっくりなグラフもあり、全項目がここにまとまっていると思うので（目を通して難しかったのでアイデアも出ませんが）、皆さんに読んでもらいベースにしてもらえたら良いと思う。

石田副会長

スコープという図があるが、今はここ、次はここ、その次はそこ、とシステムティックに捉えているのは良いと思う。

坪井委員

シナリオが幾つかあり、このまま何もしない生活を続けていってこうなると、本当に皆で努力して行ったらこうなると、その間に二つ位あり、今の程度頑張れば良いのかなという形で、解り易くてとても良いと思う。

渡辺委員

長野県でもゼロカーボン推進室が同じように戦略を策定したり、パブリックコメントを求めたりしている。白馬村だけでゼロから調査するのではなく、既に県でも調査・把握しているものがあるので、それを使いながら、県の知見とかも加えながら進めていくのが良いと思う。2025年までに小水力を倍増させると決まっているのでそういう知見を取り入れたら良いと思う。

齋藤会長

定量的な数値・データは、ある程度調べられているはずなので、それは積極的に活用し、より具体的な検討に時間とお金を掛けていくという事で、和田委員の指摘に繋がる話と理解している。

渡辺委員

調査はほぼされ尽くしていると思うので、村の木質バイオマスの時もそうですが、調査の結果が出て立派な報告書ができたが、それを実現する予算がないという事になりかねないので、もう一步踏み込んだところまで行けるようにしてほしいと思う。

伊藤委員

こういう地域だと、広く多くの人に知ってもらう為にも、そういう調査をすると解り易く、皆さんが理解できる為のコンセンサスも得られるのかなと認識していた。一本釣りだと色々問題が出てくるので、着実に皆さんに解り易く知ってもらう為のデータなので、その辺はバランスなのかなと思う。

齋藤会長

調査の進め方や仕様・要求書の在り方等かなりいろいろ意見・指摘を頂いたので、それは事務局でまとめてもらうとして、次の第2回のタイミングと内容について相談したい。

渡辺委員

県の施策の話ですが、そっくり真似をして使える部分もあると思うが、県のゼロカーボン推進室と連携しているのかどうか、情報共有しているのかどうか。県では白馬をイメージしてやっている様なので、県から具体的にこうして欲しいとか連携しましょうという会話がなされているのか聞かせて欲しい。

柳澤委員

立場的にも、私の方で繋いでゆくことになる。今回もその為に資料をお示した。本来は県の方でこういう事をして欲しい等、具体的なものが出せば良いが、大雑把なものはあるが、今のところ具体的なものは無い状況である。

検討する中で協力できるものがあれば協力していくという事である。

渡辺委員

県は看板を掲げて、後は地域で積み上げて、ある程度の段階で協力を…

柳澤委員

ある程度の段階という事ではなく、できるものがあれば協力していく。例えば、今年度も小水力の関係で補助率や上限を上げたりしている。全部という訳ではないが、できる事は協力していきたいので活用して頂きたい。

割田委員

発電に特化している感じだが、木質バイオマスについては、F I Tで高い価格で買ってもらう為には未利用材となり、そういうものでないと高い価格で買ってくれないので、塩尻の様な大規模な所では材の供給が間に合わない現状がある。発電だけでなく熱利用もあるのでボイラーについても検討に加えたら導入し易くなる。1メガ（の発電量）でもかなりの材を使うし、景観も守りながらやっていく必要もあるので、是非検討をお願いしたい。

石田副会長

県の資料の中に白馬村の熱自給率が6.6%と書かれており、かなり低い。

柳澤委員

これは、重油等を含む熱利用の数字である。

バイオマスについては、発電だけでなく熱も高い効率で利用できるのもので、ありがたと思う。

齋藤会長

私自身も木質バイオマスの経験からすると、発電しようすると相当な投資金額になるし、あまり環境保護に繋がらないというのが正直なところである。それよりも森林保全という観点・視点というのを持つと、熱利用が積極的になるかなと思う。それは、準備会でも出ていたし、提言の中にも入っているので反映されるべきと思う。

田口委員

こういう協議会は、県内の他市町村でもやっているか？

柳澤委員

今のところ白馬村だけだが、ゼロカーボンもここ一年位で動きが変わってきて、更にここ半年位から話がかかなり変わってきており、来年度から追随してくる所が増えてくると思っている。

田口委員

そういう市町村があれば、県もこういう形で進めているので、協力しながら進めていくと効率的で良いのでは。

割田委員

大北管内でも白馬、池田が宣言しており、大町もやってきている。この地域はかなり積極的な地域なので、連携取りながら行動計画を作っていく事が大事だと思う。

齋藤会長

こちらの協議会は、かなり進んでいるしバランスもとれていると思う。私も他の協議会に参加しているが、県や民間企業も参加しており、こういう構成の協議会はかなり稀だと思う。一番先進的な協議会になり得ると思っているので、是非これから良いアウトプットがしたいと思っている。

田口委員

私も小水力をやっていて、大手を含めて外部からもどんどん入ってきているが、地域主体という形にならなければあまり意味がないと思っている。是非皆さんと協力しながら地域循環・地産地消という形で進めていければと思う。

楠川で県の補助金を頂き、1200万円弱の調査を行い昨年春終わっている。最大で388Kwですが、FITの価格を含め水利権（地域の農業用水として慣行水利権も持っており）の問題とか色々あり、安全なところで199Kwに抑えて進めている。

現在は資金調達というところですが、土地交渉が進んでいるか？同意は得ているか？水利権の関係では漁協とは調整・同意が取れているのか？金融機関から求められている13項目の内10項目はクリアしている。それが済めば進められる。

齋藤会長

全体をとおして、他に何かあれば…。

石田副会長

懸念されていたリスクが顕在化し、今年の1月に電力価格が大幅に上がってしまった。そのデータを見てもらおうと思いい資料をお配りした。電力の取引所であるJPEXが販売価格の動きを出したもので、今まで10円不足だったものが100円を超える状況になり、「使うのをやめてください」というキャンペーンを始めた。新電力がかなり儲かるので

地産地消の観点では、国ではインバランス価格（価格の補給と平均化）というシステムの再構築をやっているようなので、「いや、大丈夫です。次の施策でこうなりました。」というものもこの協議会から発信していく必要があるかと思いい、その事実と方向感をお示したもので、継続していきたい。

齋藤会長

これは、重要です。相当混乱しました。

石田副会長

「やりたくても、これじゃできないだろう！」という事になりかねません。

事務局矢口係長

リモート参加している草本委員から発言があったので代読します。

バイオマスに関し、森の再生を目指す観点で、杉の間伐材を利用的な発電し、徐々に元々あった木に受け変えていく事は可能だと思う。木は年間10%程成長すると言われており、乱伐せずに森を成長させる事は可能だと思うので、調査の際にそういう観点を入れてもらえれば嬉しい。（以上）

割田委員

森はCo2を吸収するという大きな役割を果たしており、健全な森を作っていく事は必要で、大事な事だと思う。

齋藤会長

色々な貴重な意見・指摘を頂いたので、次回につなげていきたい。

今後の進め方について、事務局からお願いしたい。

事務局矢口係長

今日出された意見をまとめて、進め方やどこまで踏み込めるか等を整理し、皆さんにフィードバックしたい。

先程のスケジュールでは5月に勉強会を兼ねた報告会をとの事でしたので、今日出た意見を整理し報告したい。

村民を対象にするという意見もあったが、現時点では委員を対象にと考えている。結果はメール等で連絡したい。取り敢えず5月中旬に開催したいと考えており、改めてご連絡する。

事務局吉田総務課長

以上をもって会議を終了とします。お疲れ様でした。